

宮崎小、中学校の現状と課題



1 学校概要①

- 現校舎は平成15年建築
- 面積66,000㎡の自然公園は貴重な学習の場



ツツジの丘に建つ校舎



自然公園には、ギンリョウソウなどの希少生物

1 学校概要② 生徒数の推移

年	できごと	学級数	生徒数
明治43年	宮崎尋常小学校と改称 (それ以前は洗心校)		323
昭和40年	現在の場所に校舎建築		426
昭和41年	学校自然公園造成	12	423
平成15年	第一期新校舎建設完了	10 (特1)	248
令和2年	現在	11 (特2)	213
令和5年	3年後	6	162

2 思いやりのある子①～仲間づくり～



坂道を登る集団登校



全校で縦割り班遊び

2 思いやりのある子②～社会性の育成～



保育園年長児との交流



ボランティアで行うあいさつ運動

3 自ら学ぶ子①～主体的に取り組む～



グループで作戦会議



福祉体験の発表会

3 自ら学ぶ子②～基礎・基本の定着～



伝えたいことをしっかり発表

ALTとの楽しい授業

4 やり抜く子①～体力の向上～



広い廊下で全校ストレッチ



伝統の公園走大会

4 やり抜く子② ～健康の保持増進～



冬の公園はスキー場



チャレンジ なわとび大会

5-1 地域とのつながり (保小中連携)



先輩として1年生の説明会



中学校では、授業体験

5-2 地域とのつながり・ふれあい



• 人権教室でのふれあい

• 町探検でのふれあい



5-3 地域とのつながり・地域に学ぶ



• 特産のタケノコ掘り

• 陶芸体験



5-4 地域とのつながり・学び発信する

・村田製作所見学



・ヤマボウシの植樹



6 小規模校のよさと課題

よ さ	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学年のまとまりがよい。一人ひとりの個性を周りの子も理解している。・学習では、きめ細かく指導でき、一人ひとりの活躍の場が設定できる。・縦割り活動が組みやすく、行事などで継続した指導ができる。・複数クラスの学年では、教員間での相談や役割分担ができる。単学級では、計画的に一貫した指導がしやすい。	<ul style="list-style-type: none">・クラス替えのない学年では、人間関係が固定化しがちである。・学年が進むにつれ、発表する子・しない子など、役割の固定化が進む。・感染症予防には適さない。・相談・調整に時間がかかることがある。また、単学級では、すべてを一人で担うために、業務量が多い。

地域（児童の生活圏）で育ち、地域を学び、地域をつなぐ児童とその教育の場である小学校は、その規模の大小に関わらず、地域の核であり、宝となっています。